

## 公共用水域水質測定結果の概要

### 1 令和4年度環境基準等達成状況

#### (1) 健康項目

人の健康の保護に関する環境基準が設定されている項目（カドミウム、全シアン等の27項目）については、「硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素」が忍川及び高田川で環境基準を超過したが、その他の項目については、いずれの地点においても環境基準を達成した。（表1、図1）

硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の環境基準が未達成であった忍川及び高田川は、源流部及び湧水の硝酸性窒素濃度が高いことが判明しており、畜産及び畑作による影響が考えられる。

そのため、「千葉県硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素に係る地下水保全対策実施方針」に基づき、畜産農家への家畜排せつ物の適正管理に係る指導や畑作農家の適正施肥の推進などについて、今後も市町村及び関係機関と連携して進めていく。

表1 健康項目の環境基準超過状況 (単位：mg/L)

物質名	河川名	地点名（市町村名）	年平均値	環境基準値
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	忍川	富川地先（銚子市）	16	10以下
	高田川	白石取水場（銚子市）	12	

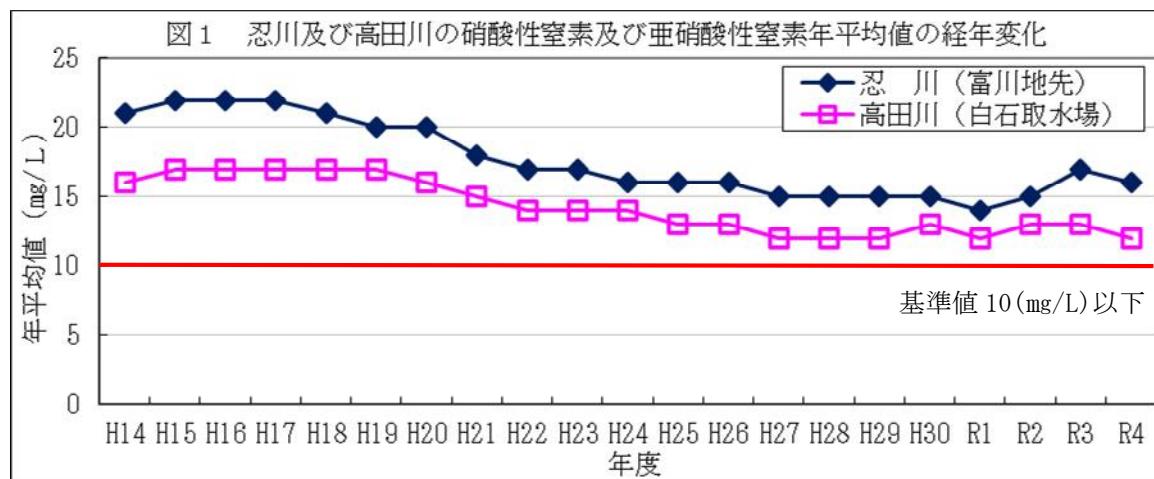


図1 忍川及び高田川の硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の経年変化

#### (2) 生活環境項目

##### ア BOD（河川）・COD（湖沼及び海域）

BOD・CODについては、有機物などによる水質汚濁の指標であり、環境基準が設定されている85水域のうち60水域で達成し、達成率は70.6%で、前年度より4.7ポイント低下した。

河川、湖沼、海域の環境基準達成率は、河川で77.1%（前年度82.9%）、湖沼で0%（同0%）、海域で54.5%（同54.5%）となった。（表2、図2）

表2 BOD・CODの類型別環境基準達成状況

区分	類型	環境基準値 (mg/L)	類型指定 水域数	達成 水域数	達成率 (%)
河川 (BOD)	A	2以下	24(24)	15(19)	62.5(79.2)
	B	3以下	22(22)	18(17)	81.8(77.3)
	C	5以下	14(14)	11(12)	78.6(85.7)
	D	8以下	2(2)	2(2)	100(100)
	E	10以下	8(8)	8(8)	100(100)
	河川計	—	70(70)	54(58)	77.1(82.9)
湖沼 (COD)	A	3以下	3(3)	0(0)	0(0)
	B	5以下	1(1)	0(0)	0(0)
	湖沼計	—	4(4)	0(0)	0(0)
海域 (COD)	A	2以下	2(2)	1(1)	50.0(50.0)
	B	3以下	4(4)	0(0)	0(0)
	C	8以下	5(5)	5(5)	100(100)
	海域計	—	11(11)	6(6)	54.5(54.5)
合計		—	85(85)	60(64)	70.6(75.3)

(注) ( )内は前年度。

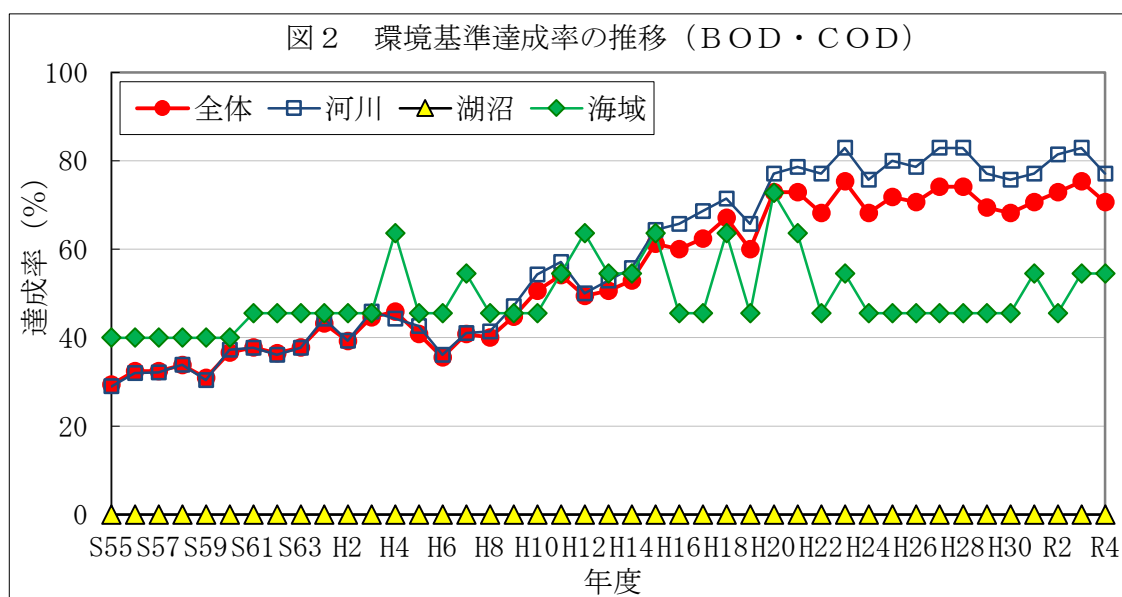


図2 環境基準達成率の推移 (BOD・COD)

### イ 全窒素・全りん

全窒素・全りんの環境基準は、富栄養化が水質汚濁の原因となる閉鎖性水域の湖沼2水域・海域5水域に適用される。

環境基準達成状況は、湖沼2水域ではともに未達成だったが、海域5水域では、すべての水域で、全窒素及び全りんの環境基準を達成した。

ウ 全亜鉛・ノニルフェノール・L A S（直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩）  
 全亜鉛等 3 項目は、水生生物の保全を目的とした環境基準項目であり、  
 6 6 水域（河川 5 6 水域・湖沼 4 水域・海域 6 水域）に適用される。

環境基準達成状況は、全亜鉛については河川 2 水域で、L A S については  
 河川 1 水域で未達成だったが、ノニルフェノールについてはすべての水域で  
 環境基準を達成した。

エ 大腸菌数

令和 4 年度から評価対象となった大腸菌数は、糞便汚染を示す指標である。  
 環境基準が設定されている 5 5 地点（河川 4 8 地点、湖沼 3 地点、海域  
 4 地点）のうち 2 7 地点で達成し、達成率は 4 9 . 1 % となった。

環境基準達成状況を水域の区分ごとにみると、河川で 4 1 . 7 %、湖沼で  
 1 0 0 %、海域で 1 0 0 % となった。

2 水質の現況

(1) 河川

ア 江戸川

上流、中流、下流（1）、下流（2）の 4 水域 9 地点で調査を実施して  
 おり、BODの年平均値は、1.0~2.7mg/Lであった。

主要地点においては、年度による変動があるものの、ここ数年概ね横ば  
 いの状況にある。（図 3 - 1）

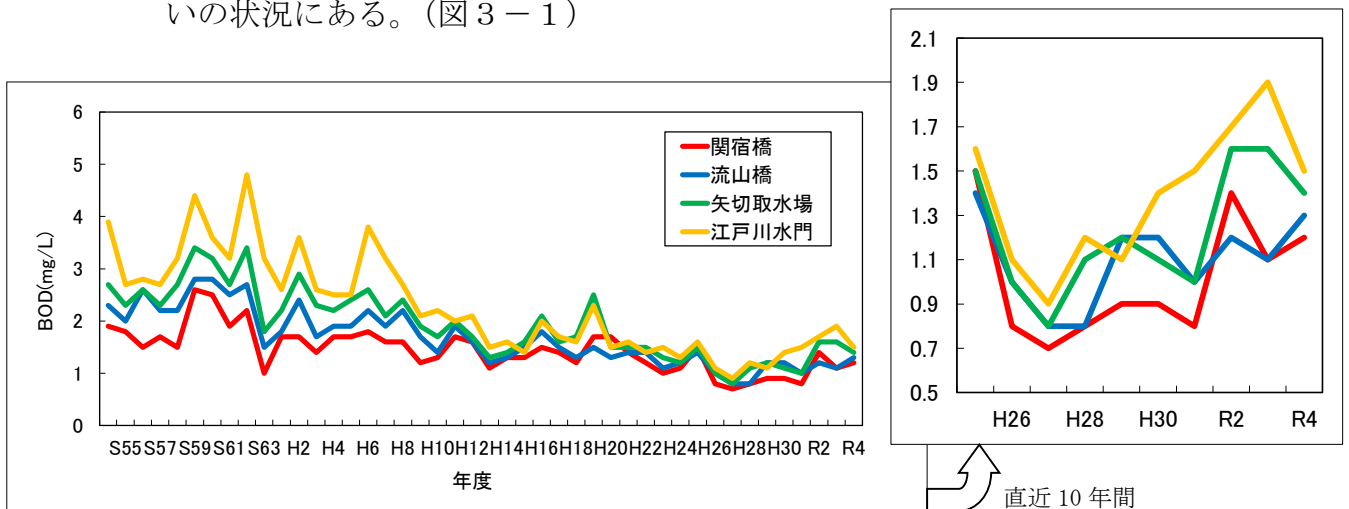


図 3 - 1 江戸川の主要地点の水質経年変化 (BOD年平均値)

## イ 利根川

江戸川分岐点から下流の8地点で調査を実施しており、BODの年平均値は、1.0～2.2mg/Lであった。

主要地点においては、年度による変動はあるものの、ここ数年概ね横ばいの傾向にある。(図3-2)

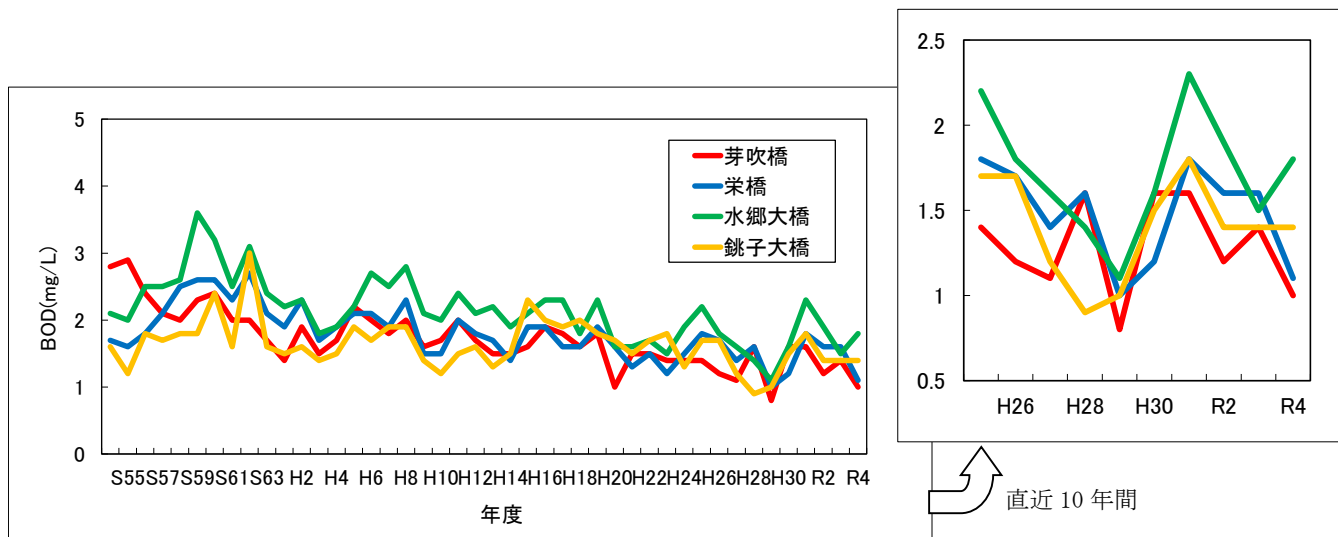


図3-2 利根川の主要地点の水質経年変化（BOD年平均値）

## ウ 県内主要河川

県内主要4河川（養老川、小櫃川、栗山川、黒部川）のBOD年平均値は、1.3mg/L～3.3mg/Lであり、年度による変動はあるものの、概ね横ばいの状況にある。(図3-3)

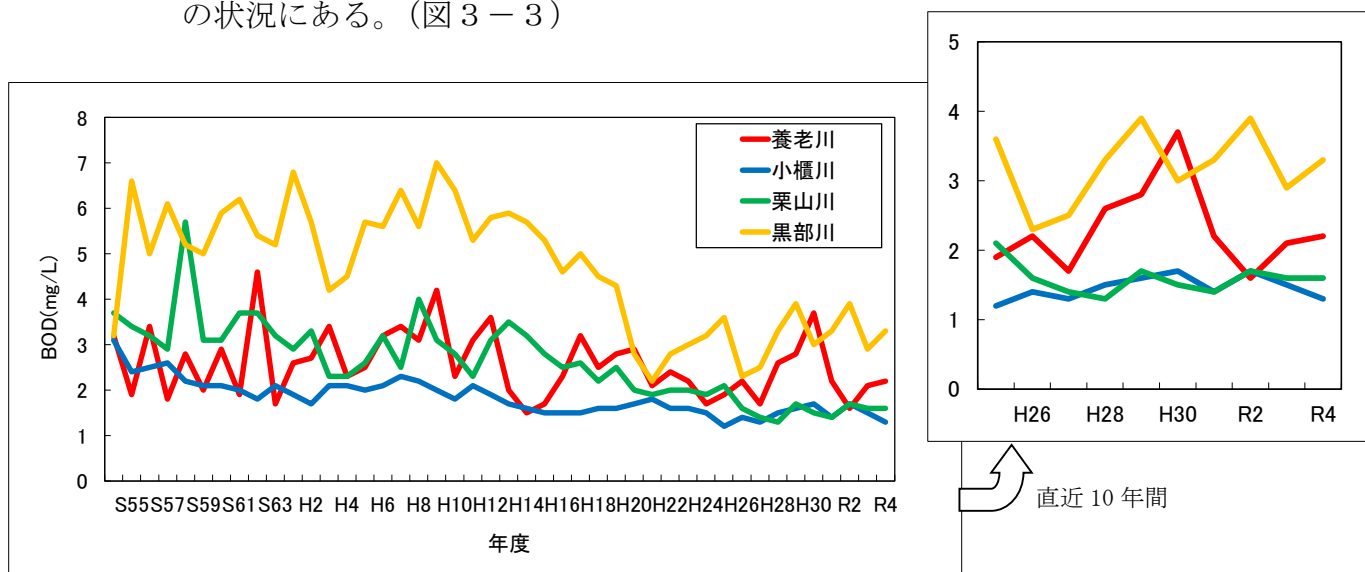


図3-3 県内主要河川の水質経年変化（BOD年平均値）

## エ 主要都市河川

流域の人口密度が高い県北西部の河川のBOD年平均值は、平成15年頃までに大幅に改善され、近年も改善または横ばいの状況にある。(図3-4)

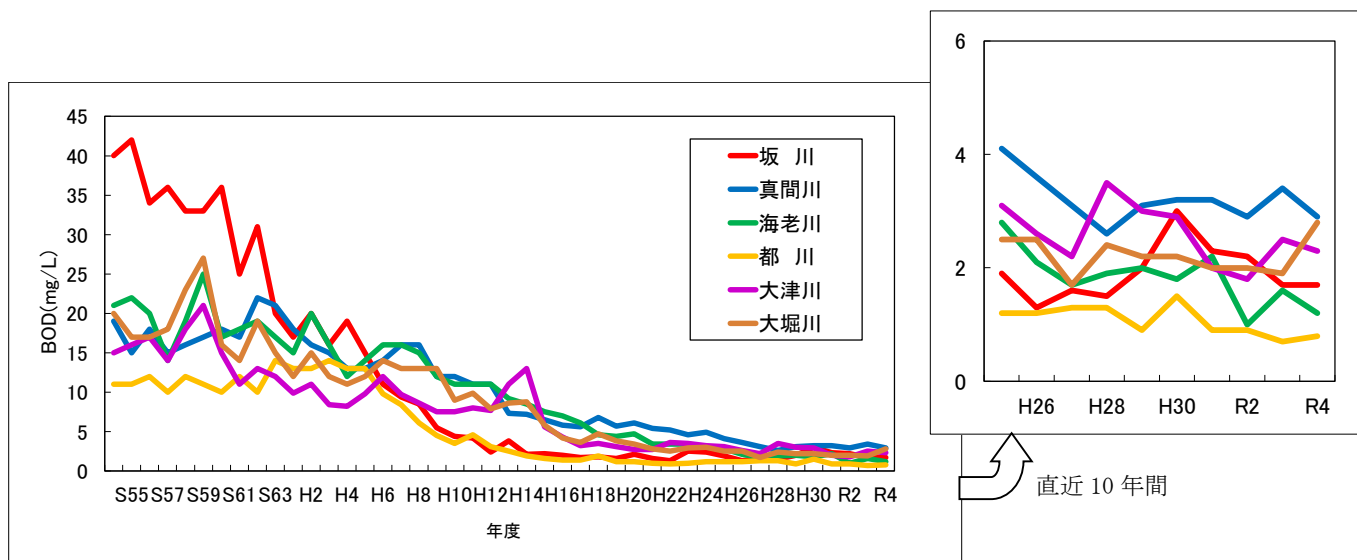


図3-4 県内主要都市河川の水質経年変化 (BOD年平均值)

## (2) 湖沼

印旛沼、手賀沼、高滝ダム及び亀山ダムの4水域、15地点で調査を実施している。COD年平均值は、すべての湖沼において概ね横ばいの状況にある。(図3-5)

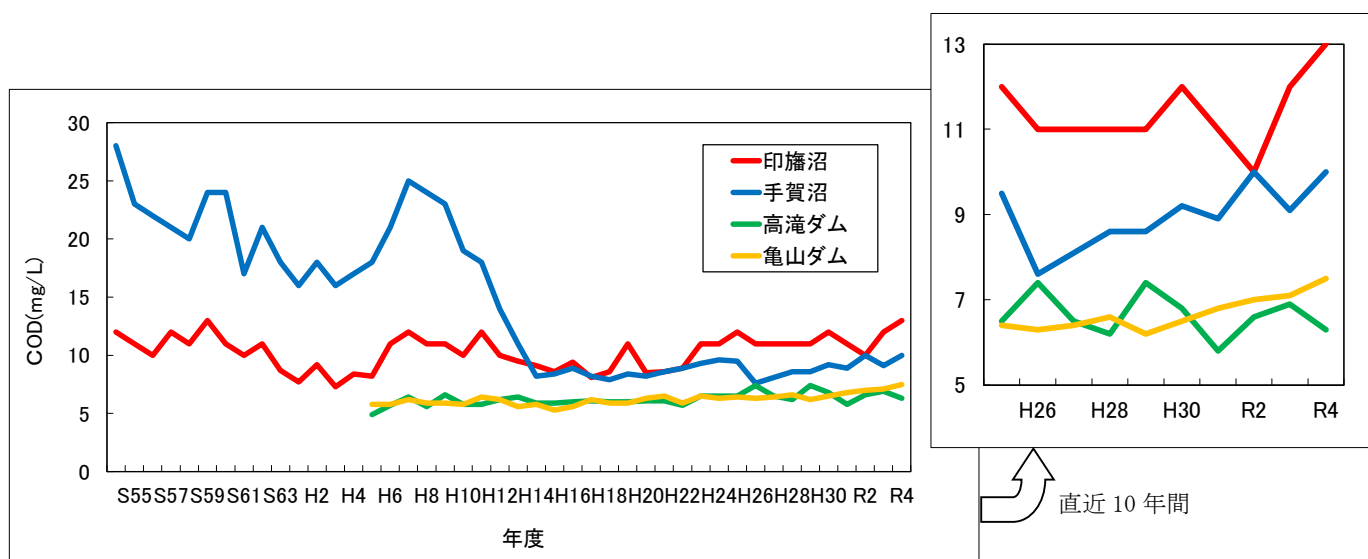


図3-5 県内湖沼の水質経年変化 (COD年平均值)

### (3) 海域

東京湾内湾、東京湾内房、南房総水域及び九十九里水域の計 42 地点で調査を実施している。COD年平均値は、年度による変動はあるものの、ここ数年概ね横ばいの状況にある。(図3-6、3-7、3-8)

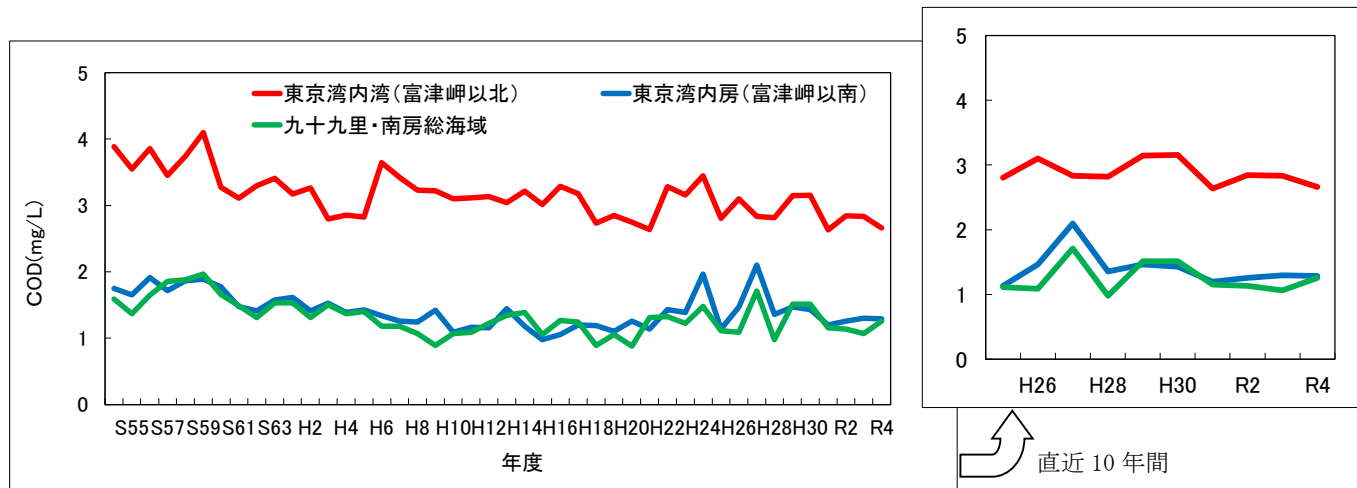


図3-6 海域別のCOD年平均値経年変化

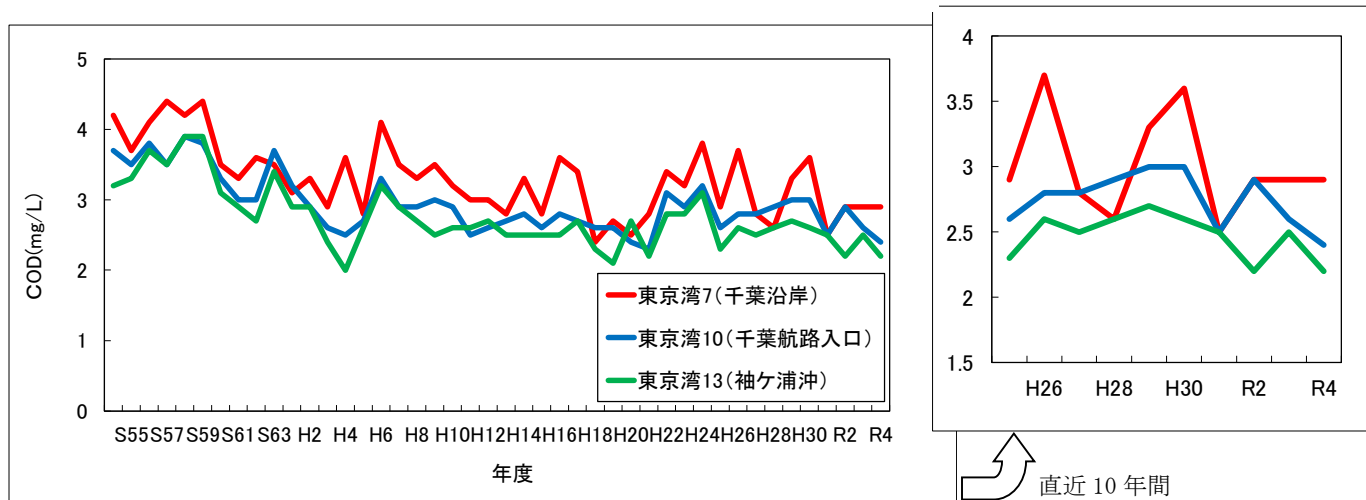


図3-7 東京湾内湾の水質経年変化 (COD年平均値)

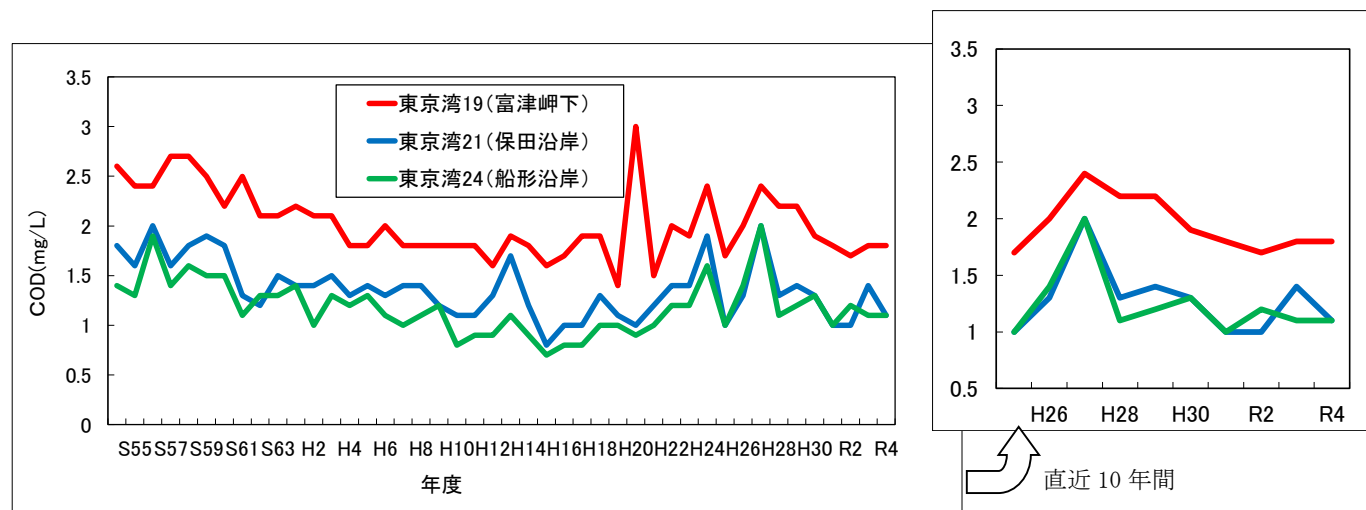


図3-8 東京湾内房の水質経年変化 (COD年平均値)